



はくび通信

第
206425
号



お寺の中の、体験型カフェ

日本茶文化を愉しむ 体験型寺カフェ「間の間」

健康志向の高まりから、昨今抹茶をはじめとする日本茶が世界中で人気を集めています。昔から私たち日本人が慣れ親しんだ食文化が認められるというのはなかなかうれしく思います。一方で、今の日本の家庭には急須がないなど日本茶本来の味や香りを楽しむ機会が減っていると耳にします。

そこで、信秀の十一男 有楽斎が茶道有楽流・織田流煎茶道の茶祖ということにご縁を感じ、本堂二階で美味しい日本茶を気軽に愉しめる寺カフェ「間の間（まのま）」をオープンしました。

■二つの「間」

- ・日本茶本来の味と香りを楽しむ「時間」としての「間」
- ・出来立ての日本茶を体験できる「空間」としての「間」

「間の間」は時間と空間を愉しんでいただきたいという想いから名付けました。

また、「間の間」は単なるカフェではなく、普段はあまり立ち入ることがないと思われがちなお寺という場所に、万松寺ならではのコンテンツを用意したり、訪日外国人の方にも気軽に立ち寄っていただけるよう多言語のご案内を用意して皆さまをお迎えします。

そんな「間の間」について少しご紹介したいと思います。

■五感をくすぐる体験

「間の間」では、使用する日本茶を東海地方のお茶に限定するなど、地産地消にこだわりました。さらに体験型メニューとして、

抹茶はお客自身で点てていただきます。お好きな濃さや点て具合を見つけるのも楽しいものです。また、煎茶もお客自身で急須から湯呑に淹れていただきます。上質な煎茶は、一煎、二煎と味わうごとに、味と香りの移ろいを楽しむことができます。

もちろん体験型のメニュー以外にもお飲み物や甘味などをご用意しておりますので、そのときの気分に合わせてお選びください。

畳に座り、陶器の温もりを感じながらお茶を飲む。ただそれだけのことなのですが、日常ではなかなか味わえない贅沢な「間」となるかもしれません。

■併設スポット

「間の間」のオープンに合わせて、新たな立ち寄りスポットもできました。本堂一階には、万松寺キャラクターをあしらったお菓子や文房具などのオリジナルグッズを販売するお土産屋。本堂二階の「間の間」の隣には、信秀木像や万松寺が所蔵する美術品などを展示するミニギャラリー、万松寺に所縁のある歴史上の人物と事柄を紹介するパネルコーナー、着物や和小物を使って写真を撮れるフォトスポットを併設しました。

お近くにお越しの際はお気軽に足をお運びください。

万松寺本堂 2 階



Japanese Green Tea Café

11月14日(金)

OPEN

ミニギャラリー&フォトスポット 本堂 2 階

お土産屋 本堂 1 階

同時 OPEN

信秀木像や万松寺所蔵の美術品などを展示するミニギャラリー

着物や和小物を使って写真が撮れるフォトスポット

万松寺キャラクターのオリジナルグッズを販売

営業時間: 10:00 ~ 16:00 (L.O. 15:00)

定休日: 火曜日・行事日(正月/節分/お彼岸/お盆など)

初回のみ拝観料 1,000 円を頂きます。拝観料には御守と 500 円分の金券が含まれています。御守は 1 年間有効で、次回からは御守「みまもり」をご提示いただくと無料でご入場いただけます。金券はカフェやお土産屋でお使いいただけます。

住職の小囁



食べることは生きること

「歳をとると時間の流れが速く感じる」というジャーナーの法則に抗うように過ごしているつもりですが、この時期がくると「もう師走か。早いな」と感じるようになりました。

年末年始は、やはり日常とは異なるもので、行事やイベントなどが多いように思います。同時に人と会う機会も多くなり、普段とは食生活が変わることが多いのではないのでしょうか？
今回は「食」に焦点をあててお話しさせていただきます。

■命のリレー

皆さんは、お坊さんの食事についてどんなイメージを持っていますか？その昔「お坊さんは肉を食べてもいいのですか？」と聞かれたことがあります。実はお釈迦様は肉を食べていたといわれています。ただし「三種の浄肉」といわれ、自分の目で殺されるところを見ていない・自分の為に殺したと聞いていない・その疑いがない場合に限っていただいていたそうです。お釈迦様は「いただく命を無駄にしないこと」「感謝していただく命をつなぐこと」が大切だと教えているのではないかと私は思っています。

■命あるものをいただく

私たちは、野菜、肉、魚などといった命あるものをいただいている。多くのエネルギーを得ています。またそういった食材が私たちの口に入るまでに、多くの人が関わっています。私たちはそのことをつい忘れてしまいがちですが、食べるものがなかったり、それを私たちの食卓へ届けしてくれる人がいなかったりしたらどうなることでしょうか？

食事ができることは「有難い」「有ることが難しい」ことだと思ってしまう。その心がけが当たり前になることが、いただいた命や関わった人への敬意へとつながるのだと私は思います。



■自分に合った食事を

私は以前、不摂生な食生活の結果、糖尿病になり食生活の見直しを余儀なくされました。

そのときに「充実した一生を過ごす」ためには体が資本なのだということを、しみじみ感じました。

以来私は、できるだけ小麦を避け、お米も1日1回よく噛んで食べる、野菜、肉、魚など栄養のバランスを保つという食生活

活を心がけるようにしました。おかげさまで今では、風邪もひきにくくなり、毎日元気に過ごしています。

■よく噛むこと

最近、おなかがいっぱいになればよい、栄養が摂ればよいということを優先して、あまり噛まなくてもすむ手軽な食品が増えていっているように思います。

しかし、私たちの体には噛むことで虫歯を予防したり、消化を助ける働きが備わっています。先ほどお米をよく噛むと話しましたが、噛むことでお米本来の甘みを感じることもできます。また、満腹感を感じやすく、結果的に私はダイエットをすることができました。



私たちは「生きるために食べている」のではなく「食べることで生かされている」のです。だからこそ今日も手を合わせて「いただきます」「ごちそうさま」と感謝を伝えましょう。

感謝の心を持ちながら、美味しいものを食べているとき、きっと皆さんからは自然と笑顔があふれていることでしょう。

合掌

万松寺住職

大藤 元裕

これからの行事

2025

12/7 (日) スジャータまつり

成道会を祝うと共に、苦行で倒れたお釈迦様を救ったスジャータの功績を称えます。

前日の宵山では、奉納された提灯を山車に飾り、17時から連夜法要と点灯式が行われます。当日はスジャータ姫による牛乳配肖を行います。

12/6 (土) スジャータまつり 宵山



12/8 (月) 成道会

お釈迦様が悟りを開かれた日に、偉業を称え報恩感謝の法要を営みます。

12/31 (水) 除夜法会

新たな年も良い氣に恵まれるよう、除夜の鐘をついていただきます。

2026

1/1 (木祝) 2 (金) 初詣大般若会

身代不動明王、白雪稲荷のご真前にて、大禍のない一年を祈禱する大般若会を行います。

1/2 (金) 3 (土) 正月合同法要

墓地や納骨堂に眠るご先祖様や大切な方に、新年のご挨拶を兼ね追善供養を営みます。

1/6 (火) 初稲荷大祭

白雪稲荷のご真前にて、仕事始めの開運祈禱を行います。

1/10 (土) 昇龍焚き上げ

正月飾りや古い御札、お守りを読経と浄火によりお焚き上げし、併せて凶返し護摩焚きを行います。

不動明王 縁日護摩 毎月28日

● 一 部 15時～16時半
二 部 19時～20時
● 代わり餅つき18時～

行事・祈禱・供養のお問合せ・お申込みは
052126210735
にて承ります。(年中無休)

僧侶が教える

仏教の豆知識

【禅語で学ぶ、穏やかな生き方】

いつの時代も、不安や悩みというものは人を惑わすものだと思えます。とりわけ現代社会は、情報量の多さや人間関係の希薄さから生じるストレス要因の増加により顕著な「ストレス社会」といわれています。

今回は、二つの禅語についてお話したあと、ストレス社会をちよつとだけ生きやすくする思考と実践について例をご紹介します。

■達磨安心（だるまあんじん）

無門関に書かれている、達磨大師と慧可大師の心についての問答に由来します。そのやり取りはこのような感じですよ。

慧可…「私の心はまだ不安です。

安心させてください」

達磨…「ではまず、不安な心を私の前に持つてこい」

慧可…「心を探し求めても、どこにも見つかりません」

達磨…「（不安な心がないことに気づいたならば）それであなたの心は安らかになった」

達磨はこの問答を通して、不安な心というものは、これといった実体はなく、自分が作り出しているものなのだというのを慧可に気づかせたのです。



不安や悩みに対して、自分以外のどこかに原因があり、それがなくなれば安心できるという見方ではなく、自分の中で作られているのだという見方に変えることによって対処の方法が変わってくるかもしれません。



■非思量（ひしりょう）

景德伝燈録に書かれている薬山弘道大師とある僧の坐禅中に何を考えているかという問答に出てくる薬山の最後の答えです。先ほどの達磨安心とは違い、問答全般ではなく、薬山の答えが禅語として取り上げられることが多いです。非思量は「考えるのではなく、あるがままを受け入れる」という解釈が多くみられます。

人は自分の知見範囲で物事を考えます。そのとき、過去の出来事や未来のこと、自分以外の誰かが決めることなど、今の自分ではどうすることもできないことを考えようとして、不安や悩みを作り出してしまいます。しかし、変えることができないことや先にならないうとわからないことなどは、今考えるまでもないことなのです。まずは今起きていることを受け入れて、それに対処する。そして今できないことは「思量に非ず＝非思量」で良いのかもしれない。

「ご紹介した二つの禅語から見えてくることは、実体の無いものや考えるまでもないことに振り回されるのではなく、今起きていることに向き合い、今どうあるべきかを考えて過ごしたほうが良いということですよ。」

そのためには心身ともにゆとりを持つことが大切です。何も難しいことをする必要はありません。

例えば、目を閉じて深呼吸をするのは場所を選ばず手軽にできます。この時頭に何か浮かんでも、それについて考えず、浮かぶがまま消えるがままにして、ただ呼吸を感じるのがコツです。また、いつもより少し早く起きて生活リズムに時間的な余裕を作るのも良いでしょう。時間に余裕があると不思議なことにも気持ちにも余裕ができるものです。少し時間が取れそうなときは、喧騒を離れて自然に触れるのも良いのではないのでしょうか？禅では「山は山、水は水」といわれます。あるがままの姿に触れることは感性を豊かにし、今の自分を見つめる機会となることでしょう。ゆとりを持つための方法は、人によって千差万別です。自分に合った方法を探してみてください。



そうはいっても不安や悩みをおひとりですべてなくすことは難しいことだと思えます。そんなときは、心を許せる誰かに話をしてみると良いかもしれません。当寺の仏教講座へのご参加も大歓迎いたします。

Pick Up

万松寺

お土産屋

本堂 1階

万松寺キャラクターをあしらったお菓子や文房具といったオリジナルグッズを販売

はくびの和盆ラムネとこんぺいとう



はくびはさめる美濃和紙マグネット



万松寺マスキングテープ



大人の寺子屋

万松寺住職との気楽なお茶会



万松寺の仏教講座



講師

万松寺住職 大藤 元裕

開催日

12月7日

時間

10時半～12時

参加費

300円（お抹茶・お菓子付き）

※行事などにより、日時・会場の変更や中止となる場合があります。

この「はくび通信」ご持参にて1回無料でご参加いただけます

お申し込み・お問合わせ
WEB 万松寺 学び舎
電話 052-262-0735
検索

坐禅会

毎週日曜日 9時～10時

写経会

毎月第2土曜日 16時～17時半

写仏会

毎月第1・3土曜日 16時～17時半

仏教勉強会

毎月第4土曜日 16時～17時半

参加費

500円

万松寺日記

旧暦七夕

■令和7年8月29日(金)
願いを込めて奉納された短冊に、諸願成就の祈禱を行いました。



秋彼岸 合同法要

■令和7年9月23日(火祝)
24日(水)
彼岸(浄土)と此岸(現世)が近くなるとされる彼岸の時期に、追善供養を営みました。



秋期 不動明王大祭

■令和7年9月28日(日)
身代不動尊のご真前にて災難消除、病氣平癒、無病息災、身体健全、交通安全、家内安全の祈禱を行いました。



絆画展

■令和7年10月17日(金)
19日(日)
絆画大村順さんの展示会が開催されました。
会期中は作者の大村さんも在廊され、ご来場の方々と絆画について思いを語られました。



万松寺 年末年始のご案内

一年の煩惱をはらい、2026年を清らかな心でお迎えください

除夜法会

12月31日 水
22時～



年越しそばを食べながら新しい年を迎え、0時を過ぎたら「良い一年にしよう」との思いを込めて除夜の鐘をついていただきます。どなた様でもご参加いただけますので、万松寺での年越しをお楽しみください。

◆一口 一万五千元 ※12月16日(火) 一口 七千元
おせち料理・破魔矢・暦つき 申し込み締切 干支絵馬・暦つき ※当日受付可

初詣大般若会

1月1日 木祝・2日 金
10時～16時

災難や病気の身代わりになってくださる身代不動。信長がご加護によって銃撃を免れたという霊験あらたかな身代不動のご真前にて大禍のない平穏な一年を祈念させていただきます。

◆大般若 一万円 ◆祈祷 五千元 ◆祈願 二千元
大般若札・鎗矢・身代わり餅・暦 御札・破魔矢・身代わり餅・暦 御札・干支絵馬・暦

初稲荷大祭

1月6日 火
11時～14時

永い歴史の中で多くの人々の願いを叶えてきた白雪稲荷。門前の甘酒屋がご加護により代々栄えたという商売繁盛に霊験あらたかな白雪稲荷のご真前にて年中の繁盛・繁栄を祈念させていただきます。

◆大般若 一万円 ◆祈祷 五千元
大般若札・鎗矢・身代わり餅・暦 御札・破魔矢・身代わり餅・暦

昇龍焚き上げ

1月10日 土
17時～18時

読経と浄火で無病息災・家内安全・諸願成就をご祈祷します。

■護摩祈祷 個別加持祈祷付
◆特別護摩 ◆凶返し「吉祥護摩」

護摩木奉納料：一体500円

◆左義長(どんど焼き)
しめ縄飾り、古い御守・御札などをお焚き上げし、無病息災・家内安全などをご祈祷します。お焚き上げるものを、当日18時までに持参ください。

参加特典 護摩祈祷に参加された方には浄火で調理した「焼き芋」を進呈。(数量限定)